

序文

『やさしくわかる放射線治療学改訂第2版』が発刊されることを心から歓迎いたします。

放射線治療は手術や薬物療法とともにがん治療において中心的な役割を担い、患者の命と健康を守るために貢献し続けてきました。近年、科学技術の進歩とともにさらに急速な進化を遂げ、コンピューター技術やAI技術をいち早く医療に取り入れることで、私たちの理想とする高精度な放射線治療がより少ない侵襲で患者へ提供できるようになりました。また、時代とともに放射線治療の対象は拡大し、小児から高齢者まで、そして従前の根治的治療と緩和的治療の概念にとどまらず、遠隔転移に対しても予後改善が期待できる治療として、幅広く行われるようになってきました。これまで外科切除のみが根治的治療であった領域ですら、高精度放射線治療がそれに並ぶ治療として選ばれるようになってきました。免疫チェックポイント阻害薬に象徴される薬物療法の進歩が、個々のがん患者の生き方を変えるなかで、テーラーメイド化された放射線治療の重要性が、より強く社会に認識されるようになりつつあります。

この改訂版は、当学会で教育的立場にある第一線の熱意ある放射線治療専門医の方々によって執筆されました。初版のコンセプトを引き継ぐとともに、放射線治療領域での近年の大幅な進歩と技術の発展、臨床的なデータの蓄積を反映させた本となっています。放射線治療にかかわるすべての医療従事者、他診療科の医師・看護師、診療放射線技師、医学物理士、研修医、これから放射線治療専門医を目指す若手放射線科専攻医、さらにはすでに長く放射線治療に携わってきた医師等に向けて、放射線治療の基礎から臨床まで、そして近年の新たな知識と洞察をとってもわかりやすく提供しています。

本書が多くの読者にとって有益な情報源となり、放射線治療をより身近に感じ、その理解と実践のガイドとなることに期待します。そして、放射線治療のさらなる普及と発展につながり、皆様の目の前のがん患者への治療に役立つようになることを願っています。

2024年2月

公益社団法人 日本放射線腫瘍学会 理事長 宇野 隆

改訂版発刊にあたって

5年前に発刊した「やさしくわかる放射線治療学」は、お陰様で高い評価をいただきてきました。しかしながら放射線治療分野の進歩は目覚ましいものがあり、新しい内容を加える必要が出てきました。この度全面的に内容を見直し、最新の医学教育モデル・コア・カリキュラムや医師国家試験出題基準（ブループリント）に準拠した内容に改訂しています。本書は、疾患別放射線治療の実際と総論（考え方、放射線治療に必要な物理学と生物学の基礎知識）から成り立ちます。日本放射線腫瘍学会教育委員会が企画・編集作業をおこない、一線で活躍中の方に執筆を担当いただきました。もちろん「表現は簡潔に。イラストを多用してわかりやすく」をコンセプトとしていることは初版同様です。

本書を手にとってくださいました方の多くは、将来放射線治療が専門ではない領域に進まれるかもしれません。また、病院のメディカルスタッフの方、医療系学校の学生さんもうらっしゃると思います。しかし、放射線治療について何らかの興味をもってくださっているのではないのでしょうか。そのような方が、「放射線治療ってどんなメリットがあるのだろう」、「放射線治療についてもう少し詳しく知りたい」と思ったとき、「担当する患者さんに放射線治療の適応はないだろうか」と迷ったとき、きっと本書がお役に立てると思います。また病棟や放射線治療の現場で働くメディカルスタッフの皆さんにとっても、放射線治療の基本を系統的に学べる1冊です。

本書の特徴は以下のとおりです。

- ・イラストを多用し、放射線治療について「やさしくわかる」
- ・放射線治療の基礎から臨床的事項を系統的にカバー
- ・各種疾患について、病態と放射線治療の実際、治療成績などを簡潔に記載
- ・放射線治療の考え方（作用機序、必要な生物学・物理学）をわかりやすく解説
- ・最新版医学教育モデル・コア・カリキュラム、医師国家試験出題基準（ブループリント）、放射線科専門医試験（1段階目）受験に必要な専門研修プログラムの内容に準拠
- ・病院実習を行う医学生や臨床研修医が、担当患者の放射線治療適応を考える際に役立つ
- ・放射線科専攻医の日常診療と知識の整理に役立つ
- ・放射線治療に従事する診療放射線技師や看護師が、放射線治療学の基礎を学べる

本書が学修や診療の場で皆様のお役に立ち、本書を通じて放射線治療の魅力や奥深さが少しでも伝わりますことを祈っています。

2024年2月

公益社団法人 日本放射線腫瘍学会 教育委員長 内田伸恵